

西濃農林事務所の普及活動状況 令和4年12月28日現在

今月の重点活動

■水稲 令和5年度水稲研究会開催される

海津市は県内でも有数の水田地帯となっている。令和4年水稲作終了後の12月16日、海津営農経済センターにて、JAにしみの主催による、令和5年作に向けた「水稲栽培研究会」が開催された。

研究会では、JA全農岐阜県本部から米穀等の情勢について報告があり、農業普及課からは、今年度の現地試験結果や来年作に向けての注意点等を説明した。今年は登熟時期の寡日照やカメムシの多発等もあったが、トビイロウンカによる坪枯れの被害等もなく、平年並以上の収量・品質となった。特に、高密度播種試験結果については成果も出たことから次年度の取り組み拡大を進めることとなった。JAからは、箱施薬剤の変更やカメムシ対策、インボイス制度等の説明があり、来年作に向け、農業者・関係機関が連携しながら、水稲の品質・収量の向上に取り組んでいくこととなった。

品種	試験区	稈長 (cm)	坪刈収量 (kg/10a)
あきたこまち	密苗区	85.3	640
	慣行区	88.3	632
ほしじるし	密苗区	94.3	820
	慣行区	93.3	699
ハツシモ	密苗区	106	716
	慣行区	105.5	647

【高密度播種苗試験の結果】

西濃の農業・農村を支える人材育成

■将来を担う県立大垣養老高等学校 「西濃農業の現地巡回学習会」開催

西南濃農業普及事業推進協議会（会長：大垣市長）は、12月15日、県立大垣養老高等学校1年生を対象とした現地巡回学習会を開催した。これは、将来の地域農業の担い手確保を目的に毎年開催しているもので、希望した生徒20名他、引率の教諭及び市町の関係者等が参加した。

学習会では、指導農業士など管内で活躍する農業経営体5か所（花き、土地利用型作物2か所、畜産、6次産業化）及び県就農支援センターを視察した。参加した生徒たちは、実際の農業技術や農業経営に触れることができ、多くの質問が出され、メモを取るなど高い関心を持って学習する姿が見られた。

農林事務所は、この学習会が実際の農業現場を知ってもらえる良い機会となり、将来の西濃地域の農業を担う人材を育てる一助になるよう企画・支援を行った。



【説明を受ける生徒】

安心で身近な「西濃の食」づくり

■普及指導員 みどりの食料システム戦略研修（土づくり）で講師対応

12月22日、農林水産省主催のみどりの食料システム戦略研修（土づくり）がwebで行われ、全国の普及指導員に対し、講師として西濃の普及活動事例を紹介した。

研修は土づくりの基本事項の理解から、みどりの食料システム戦略における目標達成上の課題解決に向けたスキルを高めるもので、テーマごとに講義や意見交換方式で行われた。

農林事務所からは「土壌診断を用いた普及活動」と題し、葉物野菜産地（神戸町）での取り組みについて、普及活動を紹介し、質疑応答を行った。研修生からは、近年現場での土壌診断事例が少なくなったことから、質問や意見も多く好評であった。



【塩類濃度障害の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■冬春トマト 各地で栽培研修会等を開催

12月2日に海津トマト部会、12月5日に池辺園芸トマト組合の目揃会が開催された。目揃会では、初めに市場各社から現在の入荷状況や今後の販売情勢について報告され、農林事務所からは、品質の良いものが出荷できるよう厳寒期（低日射期）の栽培管理のポイントについて説明した。その後サンプルのトマトで、選別の基準について、真剣な眼差しで確認がなされた。なお、令和5年作の12月中旬での販売実績は前年比で数量93%、価格が106%となっている。

また、12月9～19日には海津トマト部会において支部研修会が開催された。農林事務所からは、厳寒期の栽培管理、コナジラミ類の対策について説明を行った。研修会終了後は、全員で現場巡回を行い、品種や管理について意見交換を行った。農林事務所では引き続き安定出荷に向けた栽培支援や病虫害対策支援を行っていく。



【目揃会の様子】

■ナシ 大垣市梨塾の開催

12月7日にJA、大垣市、農林事務所等で構成される大垣市ナシ生産連絡協議会が主体となり、大垣市梨産地の維持拡大・担い手育成を目的とした第3回「梨塾」を南若森町の梨園（棚栽培）と曾根町（根圏制御栽培）の梨園で開催し、生産者7名が参加した。

今回は、ナシの「棚栽培」と「根圏制御栽培」のせん定について農業経営課の農業革新支援専門員から指導を受けた。棚栽培では、主枝・亜主枝・側枝の区別等について、根圏制御栽培では、側枝を更新するため予備枝を配置すること、くさび処理を行う等の説明があった。

さらに12月16日には、第4回「梨塾」として、先進地視察研修を行った。視察先の石川県白山市では、園主から幸水の整枝・せん定方法について指導を受けた。大垣市のナシの7割が幸水であるため、長果枝の更新や腋花芽の確保の方法など、参加者からは多くの質問が出された。また、整枝・せん定方法だけでなく販路拡大の手法、有望品種の情報なども得ることができた。

農林事務所では、「梨塾」の企画運営を支援するとともに、県の「新たなブランド育成支援事業」を活用しつつ、大垣の梨産地が維持発展できるよう引き続き支援していく。



【現地研修会の様子】

■花き 管内学校がフラワー・ブラボー・コンクール（FBC）で受賞

11月26日、フラワー・ブラボー・コンクールの花壇表彰式がOKBふれあい会館（岐阜市）で行われた。

西濃地域の学校から大垣市立時小学校が大賞を、揖斐川町立小島小学校が総務大臣賞を、海津市立海西小学校が岐阜県教育委員会賞を受賞した。その他付帯事業についても、西濃地域の学校6校が受賞した。

花壇のみの出来だけでなく、育てた花を地域の住民に届けるという活動もあり、花とのふれあいがもたらす効果が評価されるコンクールであった。農林事務所では、今後も本FBCの取り組みが拡大し、次代につながるようPRや栽培についての支援を行っていく。



【表彰式の様子】